

研究プロジェクト実施方針

ー研究プロジェクト実施の基本的な考え方ー

2007年11月19日

I 研究所の基本理念

今日、人類は、地球温暖化、生物多様性の喪失、水資源の枯渇、人口爆発、複合汚染など地球環境問題に直面している。総合地球環境学研究所（以下「地球研」という。）は、基本認識としてこれらの地球環境問題の原因が広義の人間文化の問題であることに着目する。

地球環境問題の克服のためには、「未来可能性」を実現する道筋の探求と（新しい型の人間文化の）構築が必要であり、既存の学問分野の枠組みを超えた新たな総合的視点に立つ「地球環境学」とも云うべき学問の構築が不可欠である。

地球研は、地球環境問題に取り組む大学その他の研究機関と連携しつつ、総合的な研究プロジェクト推進の中核となる大学共同利用機関として設立された。

地球研は、地球環境問題の根本的な解決に資する学問基盤形成のために、① 地球環境問題の本質の把握に不可欠な「人間と自然の相互作用環」の解明と同時に、② 問題の克服につながる「未来可能性」を実現する道筋の探求に関する研究を遂行する共同プロジェクトを実施する。

II 研究プロジェクト方式

1. 研究プロジェクトの立ち上げ

地球研における研究プロジェクト方式は、地球研の設立趣旨に沿う特定テーマについて一定期間様々な分野の専門家が共同研究して成果を出すものである。特定共同研究としての研究プロジェクトの立ち上げは、広く研究者コミュニティの協力・協働のもとに行われるもので、次のような過程を経るものとする。

- ① 研究の新たなシーズを発掘するため、インキュベーション研究（以下「IS」という。）を公募する。ISの実施期間は6か月ないし1年とし、その間、多様な学問的背景を有する研究者による徹底的な議論を通じて、研究内容を具体化する。ISの採用及びISからFSへの移行は所内審査委員会（以下「PRT」という。）での審議を経て連絡調整会議で決定する。
- ② FSは、原則としてISから移行するものとするが、特例として、研究推進戦略センターの推薦を受けたものを、PRTの審査を経て直接FSに採択することもある。FSの実施期間は6か月ないし1年とし、その実現可能性について検討するとともに、地球研の基本的計画との適合性をより十全にする。
- ③ PRTは、下記III記載の評価の考え方に基づき所内で選考されたFSプロジェクトを、研究プロジェクト評価委員会（以下「PEC」という。）に付議する。PRTで不採択となったFSは再度PRTの審査を受けて、認められたものは次年度のFSとなることができる。
- ④ PECの評定結果に基づき、運営会議はその採択の可否を審議する。なお、PECで否決されたFSについては、更に1回以内に限り再審査を受けることができる。
- ⑤ 採択された研究プロジェクトは、プレリサーチ（以下「PR」という。）として1年間所内で準備的研究経費を措置する。
- ⑥ 地球研の概算要求が認められた段階で、本研究（以下「FR」という。）とする。FRは、予算措置後3年から5年間（プロジェクト期間については、プロジェクト採択時（PR開始時）に決定する。）とする。

⑦ IS、FS、PR、FRの研究費配分については、連絡調整会議で審議決定する。

2. 研究プロジェクトの組織

研究プロジェクトは、研究代表者と所内の研究者及び所外の研究者等を中心に構成される。

① 研究代表者

- a. PR及びFRを統括する研究代表者はプロジェクトリーダーと呼称し、研究所の専任教授、准教授であることを要する。
- b. IS、FSについては、その代表者はIS提案者、FS責任者と呼称し、IS提案者は助教と同等またはそれ以上の立場にあると所長が判断したものに限る。FS責任者は研究所の専任教授、准教授もしくは助教、または客員教授もしくは客員准教授であることを要する。

② プロジェクトコアメンバー

プロジェクトのコアメンバーは、研究分担者として、研究代表者と研究遂行の責任を分担して研究活動を行うものとする。コアメンバーは以下の要件を満たすものから研究代表者が選任する。

- a. 所内の常勤研究教育職員、非常勤研究員
- b. 大学その他の研究機関に所属する研究者（共同研究員規程による者）
- c. 外国人研究員、国内客員教授及び准教授

③ その他のプロジェクトメンバー

研究代表者は以下に該当する者の中からプロジェクトメンバーを選任する。

- a. 非常勤研究員
- b. 国内外の大学その他の研究機関に所属する研究者・研究員
- c. 博士後期課程に相当する大学院生
- d. その他、プログラム主幹が上記と同等の研究推進能力を有すると認めたる者

④ IS、FSを除いてプロジェクトには必ずプロジェクト事務担当者1名（研究教育職員、プロジェクト上級研究員、プロジェクト研究員又はプロジェクト研究推進支援員）を置くこと。（原則としてコア・メンバーであることが望ましい。）

III 研究プロジェクトの審査と評価

1. IS、FSの審査

研究プロジェクトの審査に当たっては、次に掲げる点に留意するものとする。

- ① 審査は、所定の形式による書面審査及び公開ヒアリングにより実施し、PRTの審議を経て連絡調整会議で決定する。
- ② 所内の評価システムの基本的な考え方は次のとおりとする。
 - a. 地球研の基本理念への適合性
地球研の設立趣旨ならびに理念（基本計画）に沿った研究プロジェクトであるかどうか。すなわち地球研の基本認識に基づく、いわゆる地球環境問題に関わる何らかの明確かつ具体的な問題の解決に資する学問的かつ分野横断的な探究であって、かつ一定の研究期間後にはまとまったストーリーとして研究の成果とその意義を社会に提示できるような共同研究計画であること。総合性・学際性、独創性・学術性、国際性、社会的貢献、実行可能性には特に留意する。
 - b. 地球研の研究領域（プログラム）への配慮
地球研の設定する研究領域（循環、多様性、資源、文明環境史、地球地域学）に貢献するプロジェクトであること。

2. FRの評価

① FRの評価は、PECが行う。その基本的な考え方は、次の通りである。

a. 地球研の基本理念への適合性

地球研の設立趣旨ならびに理念（基本計画）に沿った研究プロジェクトであるかどうか。すなわち地球研の基本認識に基づく、いわゆる地球環境問題に関わる何らかの明確かつ具体的な問題の解決に資する学問的かつ分野横断的な探究であって、かつ一定の研究期間後にはまとまったストーリーとして研究の成果とその意義を社会に提示できるような共同研究計画であること。地球研の設定する研究領域に関わるプロジェクトであること。総合性・学際性、独創性・学術性、国際性、社会的貢献、実行可能性には特に留意する。

b. 具体的な評価実施要領（研究プロジェクト評価指針）は、PECで決定する。

② PECの選考に基づき、運営会議において審議し、研究所運営の諸事情を勘案の上、FRへ移行させる時期を判断する。

③ FRは、実施2年目の年度末にPECに中間報告を行い、コメントを受ける。

④ FR4（終了時1年前のプロジェクト）は、評価委員会に終了1年前報告を行い、評価を受ける。

⑤ FR5（終了年のプロジェクト）は、PECに最終報告を行い、コメントを受ける。

⑥ CR2は、PRTと研究推進戦略センターによる地球研としての事後評価を行う。

各年度のPECについては、その審査経過報告を印刷物及びホームページなどの媒体により広く公表する。